

1. 研究課題名：RF-1013 ポスト 2010 年目標の実現に向けた地球規模での生物多様性の観測・評価・予測

2. 研究代表者氏名及び所属：  
矢原徹一（九州大学）



3. 研究実施期間：平成 22 年度

#### 4. 研究の趣旨・概要

2010 年は、「生物多様性損失を有意に減らす」という国際的に合意された「2010 年目標」の評価年にあたる。また、10 月に名古屋で開催される生物多様性条約第 10 回締約国会議において、「ポスト 2010 年目標」の設定が検討されている。

このような状況を背景に、GEO（Group on Earth Observation：地球観測に関する政府間会合）では、生物多様性観測に関する地球規模のネットワークとして、GEO BON（Biodiversity Observation Network：生物多様性観測ネットワーク）をスタートさせた。申請者らは、GEO BON に対応する J-BON（GEO BON 日本委員会）を組織し、さらに環境省と連携をはかりながら AP-BON（アジア太平洋地域の生物多様性観測ネットワーク）組織化を進めている。このような活動を通じ、地球規模の生物多様性に関する科学的基盤の強化に関して、わが国が指導的役割を果たすことが国際的に期待されている。

このような国際的な期待に応えるために、本研究では、生物多様性分野の戦略的研究開発の具体的方途について調査・分析を行い、研究開発の具体的目標となる課題を特定する。

本研究によって、生物多様性分野の戦略的研究開発課題が特定されるとともに、GEO BON 実行計画策定、生物多様性条約新戦略目標策定などへの科学的基盤にもとづく提言が可能となる。

#### 5. 研究項目及び実施体制

- ①陸域生物多様性評価に関する課題の調査（東北大学）
- ②海域生物多様性評価に関する課題の調査（京都大学）
- ③種・遺伝子多様性の評価と生物多様性の価値に関する課題の調査（九州大学）

6. 研究のイメージ

地球規模での生物多様性損失の危機

森林の減少...



さんごの白化...



陸域生態系の  
観測予測評価

東北大

海域生態系の  
観測予測評価

京都大

九大

種・遺伝子の  
観測予測評価  
生物多様性の価値

GEO BON  
国際観測  
ネットワーク

DIVERSITAS  
国際研究  
推進機構

ポスト2010年目標の実現をになう  
観測予測評価技術の開発

戦略的研究開発の具体的課題について調査・分析